
魔法先生ネギま!? ～存在しえない者の物語～

安心院なじみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！？～存在しない者の物語～

【Nコード】

N7535W

【作者名】

安心院なじみ

【あらすじ】

久しぶり、安心院なじみです。これが第二作ですので、多少の間違いはお許さなくていいです。もしあったらおしえてください。この作品は、『魔法先生ネギま！？』に転生した少年、『桜神 永歌』が奮闘する、そんな感じの話です。この作品に関係する他の作品は、『めだかボックス』などで、場合によって増やしていきますので・・・基本的には原作通りにいくので、よろしく。作者は、単行本を買って読んでいるので、単行本以上には進めませんのでその辺はご了承ください。それでは、どうぞご鑑賞ください！！！！

プロローグ（前書き）

最近、『緋弾のアリア』にはまっているダメ作者です。うう……。

プロローグ

えーと……うん？

ただいま、白い亜空間的などにおります・・・、何故私はここにいますでしょうか？

「死んだからじゃ。」

へー、なるほど……ってええええええええええ！！！！！！！！！！

いやいやいや、おかしいでしょう！

私は自分の部屋で寝ながら『めだかボックス』第12巻読んでいたですよ!?

え、まだ発売されてないって？ふふふ・・・それは禁止事項ですよ？
って、いきなり出てきてなにをいきなり言いやるんですかこのク
ソじじい！！

「なんで死んだことになってんですか、俺!？」

「寝てるところにトラックが突っ込んできたんじゃ、普通死ぬじや
るう？（ま、わしがやったのじゃがな）」

「おい、途中から声にでてたぞ？ コラ。」

ビクッ！！！！！！

「まあいいだろ、多分もう戻れねえしな。そうだろう？」

「そいつじゃ。」

「で、何故俺を殺したんだ？え？」

「実は……わし、もう少して死ぬんじゃないよ。」

「で？」

「代々神は人間から選ぶんじやが、やっぱ適応できる奴と無理なやつがおつての、おぬしを選ばせてもらったんじや。」

「何故俺を？」

「実は、お主は、神になると不老不死になると言うほど適応値がたかくての、それでじや。」

「ふーん。つまり俺が次の神になると？」

「うむ。」

「拒否権は？」

「なし。」

「だろうな、んで？仕事の内容はなんなんだ？」

「ん？世界の管理じや。」

「もつと詳しく。」

「アニメ・漫画・小説その他諸々の世界の管理じや。けっこうたのしいぞ？ちなみにどう改造しても良い。」

「乗った！！！」

（この間約0・00001秒）

「はやっ！！！」

「まあいいじやろう、で、おぬしには仕事になれるためにまず一つの世界の管理を任せる。」

「『ネギま！？』の世界じ「よっしやああ！！」や・・・最後までいわせとくれい・・・」

「ここまできたら、やっぱチート能力じやな？」

「そうだな、どうしようか？」

「あ、大丈夫じや、おぬしは神になった時点でもう持つとるんじやよ？気付かなんだか？」

「気付けるか！で、内容は？」

「えーと・・・つsdfghjk!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「・・・、頭、大丈夫か？」

「・・・すまん。おぬし、ホントにチートじやのう・・・」

「は？」

「おぬしのチートの能力は、ぶっちゃけ、『何でも作れる。スキルでも、者でも材料なしに』じゃ。」

「名前は？」

「えーと、確か・・・『神羅創造』じゃったと思う・・・。」

「なぜ疑問形！？」

「いや、実はその能力を持っている神がすでにおつての・・・」

「誰だ？」

「最高神じゃ。」「呼んだかい？」

「！！！！！！！！さ、最高神様あ！！？」

・・・なぜに安心院の姿なんだ？

「最近めだかボックスにはまったから。」

心を読んだことにはもう突っ込まないぞ、俺。うん。

「で、何しにきたのですか？」

「いや、この子にボクもついて行こうと思ってさ」

「は？いまなんと？」

「だから、この子について行くつて。」

「仕事はどうするんですかあ！！！！！！！！」

「君に任せる。以上。」

「反論は「なし。」ハアア・・・」

「それに、同じ能力を持つ者同士、仲良くしようぜ」

「・・・俺、空気になってたよな・・・」

「まあ、気にするなよ。それに、ボクの方が能力になれてるしね。」

「それでは、もう行きましようか？」

「待つて、名前決めないと。ボクは安心院なじみのままでいいけれど、キミはこまるでしょ？」

「じゃ、桜神 暁で。」

「なんでだい？」

「生前？読んでたネットの小説での気に入った名前です。」

「それ、ボクが書いてたんでけどね？」

「エエエエエエエエエエ！！！！！」

「つまりボクがキミの名付け親ってところだね。」

「あのー、もうよろしいでしょうか？」

「yes」

「それでは、またいつか。」

「あ、ちなみにボクは基本的に手は出さないよ？」
「エエエエエエエエエエ！！！！！」

プロローグ（後書き）

つかれたあ・・・

第一話『これは創造者ですか？　いいえ、ただのバカです。』

うん、どこだココ。

さつきまで白い空間と思ってれば、今度は真っ暗だ。黒一色。どうなってるやがる。

「どうなってるんだああ！！！！！！！！」

「うん？　どうなってるんだろうね？　聞いてみようか。おい、説明しろー。」

《はい、どうしました？》

「なんだい？　まだ作ってないのかい？」

《いや、その少年には世界の創造からやってもらおうと思ひましてね？》

「どうやるんだよ！！」

《単純に、あなたのスキル「神羅創造」で作ればいいだけです。》
「あつそ。」

《それでは、がんばってくださいーい！！！！》
ブツッ！！！！　ツーツー・ツーツー……

「んじゃ、がんばれ。」

「どうやんのさ！？」

「頭の中に作りたい世界をイメージして、それを反映させる感じだよ。」

「んじゃ、時代は……、ライフメーカー創造主が生まれるその600年ほど前で、世界は……、めんどい。原作になるようになれ。」

「んじゃ、それを反映させるように・・・、へえ、初めてにしては上出来だよ、百点満点だね。」

「よし、この後どうしようか。」

実は何も考えてない主人公。バカの極みなり。

「・・・よし、修行だ！！！！」

「へえ、シンプルだね。でもそこが気に入ったよ。で、何をする？」

「ここはネギま！？だろ？ならばまずは神鳴流だろ、やっぱし！」

「どこでやるんだい？現実世界は無理、魔法世界ももう無理だろ。」

人が最初から住んでるし。」

考え中・・・しばしお待ちを・・・

「ダイオラマ球はどうだい？」

「ああ、なるほど。でも、年取ってくしな・・・」

「いや、僕たち不老不死だし。」

「そうだった！！忘れてた！！」

「じゃ、ダイオラマ球の作成・・・どんななかみにする？」

「いっそのこと、地球をそのまんまってのは？」

「なるほど。じゃ、地球つと。体感時間は・・・ま、変えなくていいか。今は。」

「さっさと作りなよ。」

「はいはい・・・、終わったぞー。」

「んじゃ、修行へ・・・。」

「レッツゴーー!!」「」

第二話『これはなんですか？ はい、なんでもありません』

600年後

「終わった

！！！」

「そうだね」

「いやー、今日も疲れたな」

「よく言えるね、汗一つかいてないくせに」

「ほっとけ」

・・・え？時間が飛んでるって？

まあ、いいじゃないですか。え、なにしてたかって？よろしい、お教え致しましょう。

単純に言くと、神鳴流をはじめとするさまざまな流派の技を奥義まで全部マスターして、日々日々練習を日課として過ごしているだけデスよ？で、外の空気吸うついでに各地の紛争地域で暴れてきたり、物資を送ったりしてたかな？なんかあだ名がついた。何個か紹介しましょう。

『静かなる鬼』・・・静かに戦場を歩いていたら、後ろに不動明王が見えたらしい・・・

『マジで間近で大魔法食らってノーダメージなんだけど』・・・そのまんま。

『異空の死神』・・・空間を破って突然戦場に現れ、すべてを死の世界に送る（要するに殺す）から

『地獄からの贈り物』・・・作者のあだ名。なんでついた？

『双剣双銃の災厄』・・・アリア見てる人なら分かるはず。ちなみに2刀は『鉄碎牙』 『スラッシュアッ
ス』、2銃は秘密。
ク

てなわけで、ひとたび戦場に出れば・・・

全員俺にD O G E Z A

・・・、つまらなかった。とっても。

でそのあと、暇つぶしに呪文作ってた。

やばい。一回使ったら、最大で1つ惑星が・・・・・・・・消えた。

・・・、うん、二度と使わないようにしようとおもった。

大戦まで10年。楽しみだな。

あ、赤き翼と完全なるせかい、どちら側につこうかな。結構迷うんだよこれが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7535w/>

魔法先生ネギま!?～存在しえない者の物語～

2011年10月10日04時14分発行